

三重県立熊野古道センターからのてがみ

Mie Prefecture KUMANO KODO CENTER Newsletter "The Letter from Kumano Kodo Center"

2007,VOL.3

生命あふれる・・・ 熊野古道

夏休みの企画展は、
「くまのこどうの夏やすみ
～生きものは友達だ!～」

東紀州、夏の楽しみ方！

もうすぐ、夏。ふきだす汗をぬぐいながら夏の熊野古道を歩いていると、森の木々が涼しい空気を創ってくれていることや、風の通り道を肌で感じます。そして周辺の山・川・海では、野鳥や小動物、虫、キノコ、エビやカニ、涼しげな草花など、生きものがまるで同じ家族のように関わりあって生きています。そう、たとえば・・・

一花尻先生、熊野古道ではどんな友達に会えますか？

花：「熊野古道沿いの小さな水辺の近くでは、イトトンボの仲間に出会えるかもしれないよ。」

—キレイな青色の小さなトンボですね！

花：「それに森の中ではセミの大合唱が聞こえるよ。よく探したらセミの幼虫のぬけがらも見つかるかもしれないよ。」

セミの幼虫は土の中で7年も過ごして羽化しますが、その一生はたった1週間。ぬけがらは、彼らの命の証(あかし)ですね。セミがつかまりやすい、表面がデコボコした木の根っこ近くを探してみよう！



東紀州の自然のことならおまかせ！
花尻 当センター一長



さて、どんな種類のセミのぬけがらが見つかるかな!?

一次に自然をこよなく愛する七見さん(当NPO理事)、夏の時期にみなさんに紹介したい自然を教えてください。

七：「尾鷲市須賀利の普濟寺で、ヒギリという花木が、その名の通り美しい緋色の花を咲かせます。須賀利は尾鷲市内の小さな漁村で、かつては巡航船しか交通の便がなかったんです。まるで離島のようなステキな場所なんですよ。」



みなさん、潮風を浴びながら巡航船でかけてみてはいかがでしょうか？他にもいろいろと発見があるかもしれません！



—尾鷲っ子のスタッフにも聞いてみましょう。この季節の花で印象的なのは？

タツ：「夏空によく似合うレモンイエローの花を咲かせる、ハマボウが綺麗です。このあたりでは、紀北町白石湖周辺で見られます。絶滅危惧種で、東紀州でも限られた地区でしか見られません。」



南国らしい花ですね！朝咲いて夕方にはしぼんでしまうハイビスカスの仲間の一日花で、開花は8月頃迄だそうです。

ほかにも、ここで紹介しきれないくらい熊野古道周辺は野生の生命力にあふれています。たとえば、海岸の潮溜まりは楽しいリトルワールド。ヤドカリが元気に動き、ぶつかってコロんと転がったり・・・。川では魚が泳ぎ回り、岩陰を覗けばカニや川エビと目が合います。さあ、夏やすみ、彼らに会いに来ませんか!?



5/12
sat

世界の語り部との交流イベント

ことだま
神々の森からの言霊 ～ワタリガラスの民からヤタガラスの民へのメッセージ～

アラスカ先住民族に伝わる神話に「ワタリガラス神話」があり、熊野信仰には「ヤタガラス神話」があります。世界を創造し、全ての生物に魂を与え導いたというワタリガラス。そして、日本神話の導き手であるヤタガラスー。このワタリガラスの神話の語り手であり、アラスカ先住民クリンギット族の長老達から選ばれたストーリーテラー（語り部）であるボブ・サム氏を迎え、アラスカ神話の講演会とトークショーを開催しました。またボブ・サム氏は、アラスカと日本の民族的なつながりを探った写真家、故星野道夫氏の親友でもあります。センターの中庭に田んぼのカジカガエルの合唱が響くなか、ボブ・サム氏が太く深い声で「ワタリガラスの神話」を語り始めると、魂の奥底から出される言霊がこの尾鷲の空・海・山に溶け込んでいくような雰囲気包まれました。

Raven Stories

「魂を語ることを恐るるなかれ、

我々は如何にして魂を得たか…」

「ワタリガラスはタカに言う。
“勇気を持て！おまえはこの世界の
人々のために苦しむのだ。火を持って
こい！”」

「ワタリガラスはタカから火を受け取
ると、その火を大地やガケ、雪、川
の中に投げ入れた。すると、動物や
空を飛ぶもの、水の中を泳ぐ魚、
すべてのものが魂を得た。」

「木々は成長を始め、毎年多くの木
が生まれる。彼らは生きている。彼ら
はワタリガラスが与えてくれた魂を私
たちに与えてくれているのだ。だから
私たちは、岩や大地など全てのものを
敬うためにこの物語を話すのだ。」



第2部のトークショーでは、熊野神話の語り手として浜口すみゑおばあちゃん、星野氏やボブ・サム氏とも関係の深い女優の山口智子さん、そしてコーディネーターとして速水林業の速水亨氏が加わり、熊野古道の精神性や森と人との関わりについて語り合いました。

ボブ・サム氏は「熊野は私が日本で最も気に入っている場所のひとつ。みなさんの顔を見ていると、ふるさといにいるような感じがする。」と語り、私たちは民族的に繋がっている「兄弟」であると教えてくださいました。

今、アラスカの森は危機に瀕し、多くの木が日本に輸入されています。しかし、私たちが近くの森を守ることが、アラスカの森を守ることにつながるのです。ボブ・サム氏は最後に、クリンギットの言葉でこの尾鷲の山の木に祈りを捧げ、神話の夜は幕を閉じました。

その他のイベントレポート



←4/8、熊野古道講座
向井地区の藁草履作りの
達人3名の指導を受
け、楽しい藁草履づく
りのあとは、作ったば
かりの草履を履き、
暖竹の杖を持って馬越
峠を歩きました！



←4/22、浅沼宗博先生
による「熊野古道とお
茶のこころ」講演会と
気軽なお茶の楽しみ方
を学びました！

5/18-20、写真学校→
全国からの77名の参加
者と竹内敏信先生他3
名の先生を迎えて、紀
南の自然を撮影！

Open
!!

夢古道おわせがオープン



■営業日／年中無休 ■営業時間：午前9:00～午後6:00
■スカイフード空・風・土の営業時間：午前11:00～午後2:00
60歳以上 1,000円、一般 1,200円、小学生 700円、乳幼児無料
※数に限りがございますのでお問い合わせください。
■カフェタイム：午後3:00～午後6:00
(株)熊野古道おわせ TEL:0597-22-1124
HP: <http://yumekodo.com>



4月28日、熊野古道センター敷地内に地域振興ゾーン・夢古道おわせがオープンしました。江戸時代末期に建てられた古民家を移築した懐かしい空間や絶景が広がるオープンテラスで、郷土料理のランチバイキングをいただけます。（スカイフード空・風・土）お土産コーナーのほか、尾鷲を満喫できる体験学習やイベントも満載。センターからは里山の風景を楽しみながら徒歩3分です。



←地元のお母さんが作る
ランチバイキングは絶品
なんです！
コンセプトは
・旬のもの
・地のもの
・健康で安全な
・栄養バランスのよい
・地元の人が伝統的・
習慣的・庶民的に
いつも食べているもの



毎朝9:00からは朝採れ新鮮野菜の朝市！
尾鷲の土の恵みをおすすわけ！

7/20
fri~

「くまのこどうの夏やすみ ～生きものは友達だ!～」

平成19年7月20日(金)～9月2日(日)@企画展示室

開館時間:午前9時～午後5時、入場無料 展示のほかに、様々な体験イベントをご用意しています。

7/22(日) バードカービング(小3以上)

バードカービング歴20年の嶋田先生を招いて鳥の彫刻をします。
◇参加料:500円 ◇定員:10名 ◇時間:am10:00～am12:00

7/28(土) 干潮の弁財島で貝探し(小4～中3)

潮が引いた尾鷲湾の弁財島に渡り、潮溜まりで海の生き物を観察したあとセンターで詳しく調べます。
◇参加料:100円 ◇定員:30名 ◇時間:am10:00～am12:00
◇講師:保平長三氏

8/5(日)&8/12(日) 植物・昆虫博士たちとあつめてしらべる(小1年～中3対象)

植物・昆虫に詳しい先生と楽しく採取をしたあと、センターで詳しく調べます。
◇参加料:100円 ◇定員:30名 ◇時間:am10:00～pm3:00
◇講師:山口和洋氏, 岩崎哲也氏, 塩崎哲哉氏, 他



8/19(日) 巨大シダの拓本をとろう!

2mを超える巨大シダにカラフルな絵の具を使ってハンカチへ拓本をとります。
◇参加料:100円 ◇定員:20名
◇時間:pm1:00～pm3:00 ◇講師:当NPO理事 七見憲一



その他の体験学習教室

毎土日「その場で作れるひのきアートの世界」

ヒノキを削ってできる「ひのきシート」の体験学習が、来館してその場でできます。旅の思い出に、是非どうぞ!

◇しおり200円、お箸200円など ◇定員:応相談
◇時間:pm1:00～3:00 ◇当日体験・予約可
◇講師:当センターコーディネーター池田比早子
※急遽日程が変更となる場合があります。
※月別講座の日は開催できませんのでご了承ください。

月別「ひのきアート教室」

「ひのきシート」は魔法の素材!

月別でいろいろ作ります。

6/24(日) 草履(ぞうり)作り 1,500円

7/29(日) 団扇(うちわ)作り 1,000円

8/26(日) 風車作り 1,000円

9/23(日) 亀作り 800円

◇定員:10名 ◇時間:pm1:00～3:00

◇講師:当センターコーディネーター池田比早子



ひのきの団扇

8/25(土) 折り紙教室(菊の花)

9月9日は、菊花の香りの酒で月をめでる「重陽(ちょうよう)の節句」です。折り紙で鮮やかな菊の花を咲かせましょう。

◇参加料:1,000円 ◇定員:20名 ◇時間:pm1:00～3:00

◇講師:当NPO理事 七見憲一

9/16(日) バードカービング(3回連続講座の1回目)

バードカービング歴20年の嶋田先生をお招きした初心者講座。

◇参加料:1,000円 ◇定員:10名

◇時間:am10:00～am12:00 ◇講師:嶋田春幸氏

お申込みはお電話かセンターにて
直接どうぞ! TEL:0597-25-2666

旬の話題

尾鷲傘

尾鷲傘は一般の傘(骨数8本)に比べて骨が4本多い12本の丈夫な傘です。年間降水量が4000mmを超えるうえに、雨の降る勢いと雨粒が鉛玉ほど大きいといわれる尾鷲の雨。この激しい雨にも耐えうるように作られました。夢古道おわせではその流れをくむ尾鷲屋の傘を販売しています。

これからの季節の必需品です!

尾鷲ならではの尾鷲傘→



講座・講演

7/28(土) 第3回道中記に親しみ読み進める会

昔の旅日記を通じて、熊野古道や昔の旅文化への理解を深める講座です。時に世界の巡礼道へと話は脱線します(!?)

◇参加料:随時資料代 ◇定員:20名程度

◇時間:pm6:30～7:30 ◇講師:当NPO理事 川端守(予定)

※第4回は9月22日(土)に開催予定。

7/29(日) 熊野古道講座Ⅲ

「始神道・明治の道の樹木研究会」

始神道・明治道を歩きながら周辺の植物について学ぶフィールドワーク。◇参加料:300円 ◇定員:15名

◇時間:am8:30～am11:30 ◇講師:尾鷲高校教諭山本和彦氏

9/8(土) 熊野古道講座Ⅳ

「尾鷲市曾根町の文化財と飛鳥神社の巨木名木巡り」

尾鷲市曾根に残る大切な文化財と、県の天然記念物である飛鳥神社の樹叢を巡ります。◇参加料:300円 ◇定員:20名

◇時間:am9:00～pm2:30 ◇講師:当センター長 花尻薫

9/29(土) 観音信仰と岩屋堂の観音石像参り

那智青岸渡寺副住職 高木亮英氏をお迎えし、観音信仰と西国三十三所巡礼についての講演と岩屋堂での現地説明会。

◇参加料:500円 ◇定員:50名

◇時間:am10:00～pm4:30 ◇講師:高木亮英氏

秋の企画展「伊勢型紙で巡る熊野古道伊勢路」

9月15日(土)～9月30日(日) 企画展示室

伊勢型紙で熊野古道を表現し続けている上地芳弘氏の作品展。熊野三山へ続く自然豊かな折りの道・伊勢路を中心に紹介。

9/15(土)&22日(土) 伊勢型紙体験教室

伊勢型紙は額装すると素敵な美術工芸品になります。上地氏からの直伝で、あなたも伊勢型紙職人になり!

◇参加料:300円 ◇定員:5名 ◇時間:pm1:00～(2,3時間)

◇講師:上地芳弘氏

熊野古道語り部 3 通目



私は語り部として熊野古道の案内をさせていただいており、来て下さる方々が言われる一言は「熊野は山や海、川もキレイで、良いところにいるね。」私は住んでいてそれを感じていなかったですが、森のこもこな芽吹き、海の青色と雲影のグレー色のコントラストなど、すばらしい景観に心をとめて日々安らぎを感じるのでした。

昔から熊野は風光明媚な山奥と、次元の異なる神宿る山があり、山に入る資格を試される行者道、とりわけ大峯奥駈道がその一つです。

那智から吉野の約百キロを標高千メートル以上の屋根づたいに歩き、「六根清淨(ろっこんしようじよう)」と掛け念仏の「懺悔懺悔(さんげさんげ)」を繰り返しての苦しい行が、今年三月十日から始まっています。私は四月二十八日に初参加で本宮から玉置神社まで約三十キロを九時間かけて歩きました。

青岸渡寺副住職高木亮英尊師

のもので、抖そう(とそう)・山中の修行(しゆぎん)を重ねてゆくもので、途中七箇所の摩(なびき)で、若心経を唱える時と、お昼休憩の時間以外は苦しくても自分で行場ごとに心を入れ替えて、苦人を悩ませず完歩したときには、私が変わるというわけています。私も行場では自然とお経を唱える気持ちになり、お経が山の生物達に聞こえ、じつとこちらに目を向けられていたような感じが致しました。自然と一体になつて神の存在を強く感じる一瞬でした。

人間一人ですら生きられない、自然があつての今の命です。祈りまじりの感謝を忘れるには、自然と一体となる心が開かれ、自然と心が一歩となることへの喜びが、次のステップに繋がると確信しています。



次は熊野市の
向井弘美さん



谷口昌宏さん(紀宝町)
熊野古道語り部友の会会員
熊野川体感塾語り部
熊野那智ガイドの会会員

花尻 薫からの 季節のたより No.3

「夏の風物詩・スイカ」

スイカは夏の果物として親しまれています。縄文時代にはすでにエジプトでつくられていて、シルクロードから中国を経て、日本には14世紀(南北朝時代)頃伝わったと推定されています。1600年代に江戸の道ばたで売られていましたが、下品な食物と考えられ赤い姿が気味悪く、敬遠されていたようです。やがて大名などが食べるようになり、スイカを食べるとえらくなると言い伝えられました。明治時代には奈良県や和歌山県が主な産地となり、アメリカの品種と掛け合わせて「大和スイカ」が生まれたようです。

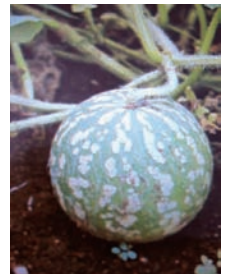
最初の頃は関東と関西で好み異なり、関西地方では黒みどり色で縞模様のない品種が好まれました。でも関東のスイカは縞模様があり甘い品種が人気だったようです。

スイカは種があり、わずらわしく食べるのにやっかいです。そこで種なしスイカが第二次大戦後、日本で作られましたが種のある品種と比べて味が落ちるといわれました。日本のスイカは質・味・色・外観など世界的に優れているといわれ、品種改良も進んでいます。最近では大玉よりも中玉や小玉が好まれ、色も赤、紅、黄、クリーム、白などいろいろの種類が店頭に並ぶようになりました。

現在ではハウスでの栽培もものが出回り、早くから食べられるようになりましたので、季節感も薄れてきました。でも当地のような田舎の畑で採れる露地ものの味は格別です。もうすぐ、あちこちにある無人市場に大きなスイカが並ぶ季節がやってきます。

スイカの昔話 花尻 薫 作

むかしむかし、ある村のスイカ畑にスイカがごろごろ、ころがっていました。夏の夕方、ピカッゴロゴロと雷が鳴り、火をふいてスイカ畑に落ちました。村の者はちちみあがりしました。雷が止むと床屋にいた若い衆が、「稲光は鬼が鏡を照らしているんや」「天に雨雲がたまりすぎて爆発したんや」と、がやがや騒ぎました。床屋のおやじは「雷はな水(スイカ)がバチッとぶつかって火をふいたんや、そんで落っこつてくるんや」それを聞いた若い衆が「それでスイカ畑に雷が落ちるんや、困った、困った」と騒いだとき。



↑スイカの原種
原産地は熱帯アフリカの砂漠地方だとされています。

アクセス&センターのご案内



- お車: 国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車: JR尾鷲駅下車→(徒歩5分)三重交通「尾鷲駅口」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

- ☆熊野古道センターニュースレター☆
“熊野古道センターからのてがみ Vol.3”
- 発行日: 2007年6月5日(季刊)
- 編集・発行: 三重県立熊野古道センター(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当: 久保
- 連絡先: 〒519-3625
三重県尾鷲市大字向井字村島12番4
TEL: 0597-25-2666 FAX: 0597-25-2667
メール: info@kumanokodocenter.com
HP: http://www.kumanokodocenter.com/
- センターのご案内
開館時間: 午前9時～午後5時
入場料: 無料
休館日: 12月31日、1月1日
(その他メンテナンス時に休館)